

2025 年 6 月 19 日

通貨ニュース

インドネシア:6 月金融政策会合～BI は再び様子見姿勢に～

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 6 月 17～18 日に開催した金融政策会合で、政策金利の BI レートを 5.50%に据え置くことを決定した(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も、それぞれ 6.25%、4.75%に維持されている。1 月会合でサプライズ利下げした後は 3 会合連続で利下げが見送られ、5 月会合で利下げを再開したが、再び様子見姿勢に転じた。なお、ブルームバーグ集計の事前予想では調査対象者 34 人中、25 人が▲据え置きを予想していた。据え置き予想が優勢であったが、9 人が▲25bp の利下げを見込んでいた。

声明文およびペリー BI 総裁の会見では、IDR の安定化やインフレ情勢、経済成長への支援の必要性への言及がみられた。今回会合では世界経済の不確実性は依然として高いものの、幾分か緩和したと述べた。先行きに関しては、関税交渉や警戒が必要とされる中東情勢を巡る緊張を受けて、不確実性が続くとの見方を示した。IDR の動きに関しては強含んだとの認識を示し、主要貿易相手国の通貨に対しても堅調に推移していると述べた。先行きに関しても引続き安定した動きとなるとの見解を述べた。IDR は 4 月 7 日に 1998 年のアジア通貨危機の安値を更新し、17224 と史上最安値をつけたが、その後は BI の安定政策やドルの軟調を背景に 5 月後半からは 16300 台を中心として推移している(図表 2)。そのうえで、BI は引き続き IDR 安定化への強い姿勢を示した。

物価動向を見ると、5 月の消費者物価指数(CPI)は+1.60%(前年比、以下同様)と 4 月の+1.95%から鈍化し、市場予想の+1.90%を下回った(図表 3)。前月に続き BI のインフレ目標内(+1.5～+3.5%)に収まった。変動の激しい食料品価格と政府の統制価格を除くコア CPI については、+2.40%と 4 月から小幅に鈍化し、インフレ目標の中央値(+2.5%)とほぼ一致している。基調的物価の伸びの水準は十分に低い。かかる中、BI は、インフレは引き続き低水準であり「2025 年および 2026 年にかけてインフレ率を目標圏内に抑制する努力を約束する」と自信を示している。

最新の経済動向に関して、消費者信頼感や製造業 PMI などは失速傾向にある(図表 4)。BI は 2025 年の成長率見通しを+4.6～5.4%に維持した。4～6 月期の成長率は米国の関税政策を見越した先行的な戦略により輸出が改善したと述べた。2025 年後半にはさらに国内経済成長は改善されとの見方を示した。一方、米国の相互関税や中東情勢による世界の不確実性の影響を軽減するためにも経済成長を支える必要があるとし、引き続き景気を下支えする意向を示している。

以上を踏まえペリー総裁は、今回の据え置き決定は「物価目標への努力、IDR の安定維持、および経済成長を支える必要と一致する」と理由を説明した。前回会合で BI が利下げを再開できた要因のひとつに財政悪化懸念の後退も

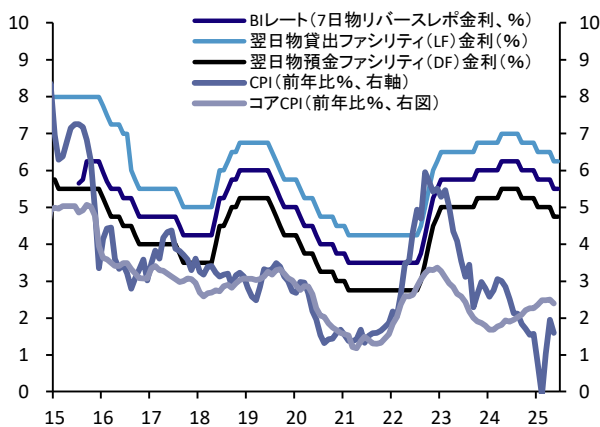
国際為替部

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

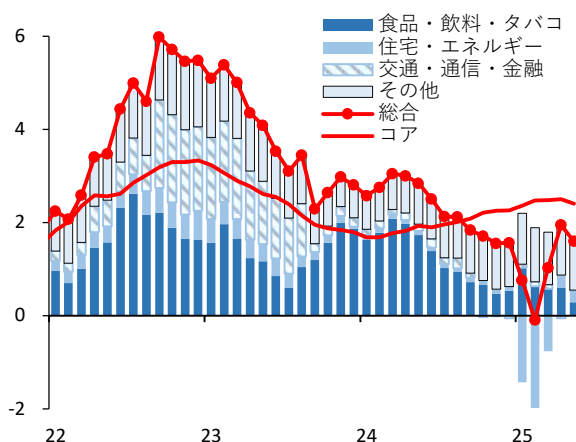
あったと推測される。1～3 月の財政収支は大幅な赤字を記録していたが 4 月末時点では黒字に転じた。財政悪化懸念が IDR 売り要因のひとつであったため、それが後退し利下げに踏み切れたのだろう。しかし、5 月末時点では再び財政収支は赤字となり、IDR 安を警戒している可能性もあるだろう。そこに外部の不確実性の高まりも相俟って慎重な姿勢を示した可能性もある。先行きに関しては、ベリー総裁は「インフレを目標範囲内に維持し、為替レート of 安定を念頭に置きながら、経済を支援する余地を探る」としており、追加利下げに含みを持たせた。FRB が BI のシナリオ通り利下げを行い、尚且つ IDR 安が回避されるのであれば、2025 年半ば以降▲25bp の利下げが 1～2 回行われ、年末までに政策金利が 5.00%～5.25% 程度まで引き下げられるとの従前予想を維持したい。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)の推移


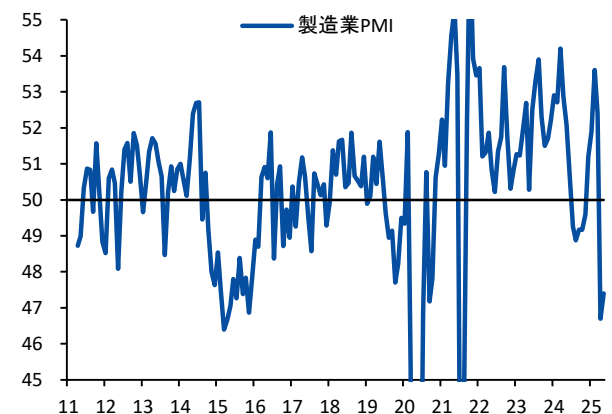
出所: インドネシア銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行
注: 2025 年 2 月の CPI は前年比▲0.09%

図表 2: IDR 相場と米金利の動向


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%, %ポイント)


出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI の推移 (中立水準=50)


出所: S&P Global、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。